

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	2年次 4月～5月		
科目名	公衆衛生学	単位数	1単位	時間数	15時限
担当講師 (実務経験)	保健師	講義時限	14時限	試験時間・配点	1時限 50点

◆学習目標

公衆衛生の概念、しくみ、歴史、現状を理解し、グローバルな視点で公衆衛生のあり方を考察できる。
公衆衛生分野における看護職の役割を理解できる。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	オリエンテーション 公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史	講義	
	2	公衆衛生のしくみ、国際保健	講義	
	3	集団の健康とらえる手法 疫学・保健統計	講義	
	4	環境と健康	講義	
	5	感染症対策とその予防対策	講義	
	6	地域における公衆衛生の実践。	講義	
	7	学校保健、学校保健の展開、養護教諭 職場と健康、産業保健活動の実際 健康危機管理・災害保健 まとめ	講義	
	8	筆記試験	試験	

◆教科書

系統看護学講座 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院

◆参考文献

国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 公衆衛生がみえる(メディックメディア)

◆成績評価の方法 筆記試験

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	2年次 4～9月		
科目名	社会福祉	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師 (実務経験)	介護福祉士	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

社会保障・社会福祉の制度やそれを担う体制、社会福祉行政の関連について理解するとともに、その活用について学びを深め、臨床現場で必要とされる他職種との連携に役立てることができるようになる。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	オリエンテーション、社会保障制度	講義	
	2	社会保障制度、社会福祉の歴史	講義	
	3	社会福祉の法制度、現代社会の変化	講義	
	4	社会保障・社会福祉の動向、医療保障	講義	
	5	医療保障	講義	
	6	医療保障、所得保障	講義	
	7	所得保障	講義	
	8	公的扶助	講義	
	9	公的扶助、高齢者福祉	講義	
	10	介護保障	講義	
	11	介護保障、障害者福祉	講義	
	12	障害者福祉	講義	
	13	児童家庭福祉	講義	
	14	社会福祉実践と医療・看護	講義	
	15	筆記試験	試験	

◆教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ (医学書院)

◆参考文献

社会福祉士国試ナビ 2018、介護福祉士国家試験受験ワークブック(中央法規)
新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解、介護の基本 I・II (中央法規)他

◆成績評価の方法 筆記試験

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	2年次 10月～1月		
科目名	看護関係法規	単位数	1単位	時間数	30 時限
担当講師 (実務経験)	保健師 看護師(医療安全管理者)	講義時限	28 時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

保健師助産師看護師法ならびに看護実践に必要な基礎知識として関係する諸法規について理解できる。
看護関係法令を学ぶことにより健康を守る看護職の役割を考えることができる。
保健師助産師看護師法ならびに看護実践に必要な基礎知識として関係する諸法規について理解する。
専門職業人として医療安全に対する責務と必要性が理解できる。
医療事故発生要因とその傾向を理解する。
医療事故防止対策を理解し安全な医療提供について考えられる。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	法の概念	講義	
	2	看護法	講義	
	3	医事法	講義	
	4	社会保険法	講義	
	5	労働法と社会基盤整備	講義	
	6	看護関係法令のまとめ	講義	
	7	福祉法	講義	
	8	医療安全の基本的な考え方を学ぶ	講義	
	9	患者に投与する業務における事故防止 注射・輸血	講義	
	10	患者に投与する業務における事故防止 内服与薬・経管栄養	講義	
	11	療養上の世話における事故防止	講義	
	12	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	講義	
	13	医療安全体制への取り組みと医療安全対策の展望	講義	
	14	グループワーク	グループワーク	
	15	筆記試験	試験	

◆教科書

- ① 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ (医学書院)
② 統合分野 医療安全 看護の実践と統合② (医学書院)

◆参考文献

医療安全ワークブック 医学書院
リスクマネージャーのための医療安全実践ガイド 日本看護協会出版会
病院安全教育 日総研

◆成績評価の方法 筆記試験

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	2年次 10月～12月		
科目名	労働と健康	単位数	1単位	時限数	15時限
担当講師 (実務経験)	事務長 専任教員(臨床実務経験あり)	講義時限	14時限	試験時間・配点	1時限 100点

◆学習目標

1. 社会の変化と発展の経緯から勤労者の健康と福祉について理解する。
2. 勤労者の健康と労働について学び、治療と就労の両立支援について理解できる。

回	学習内容	授業方法	学習課題
1回	労働衛生（産業保健）の理解 労働衛生の歴史、労働者の健康障害、わが国における労働衛生の現状	講義 P・P使用	各回の授業ごとに小テストを実施する。 定期試験に類似する問題を出題するので、内容をよく理解しておくこと。
2回	労働衛生行政 労働衛生行政の組織、労働衛生関連法規と労働衛生の展開	講義 P・P使用	
3回	労働衛生の課題と対策 職業性疾病の予防、労働者のメンタルヘルス、過重労働による健康障害対策、女性労働者の健康管理、THP、安全衛生管理水準の向上	講義 P・P使用	
4回	独立行政法人労働者健康安全機構の役割 機構の目的、機構の業務	講義 P・P使用	
5回	1. 勤労者の看護・方法論 1) 勤労者看護の定義と対象範囲 2) 勤労者看護の役割 2. 職場復帰支援制度 1) 職場復帰支援制度が求められる背景 2) 事例をもとに考える 3) 職場復帰支援制度の現状 3. 治療と就労の両立支援～がん治療を中心に～ 1) 「がん治療」を中心に説明する理由 2) 事例を用いて両立支援を考える	講義 P・P使用	テキストp48～p55、p71 テキスト巻末「勤労者看護業務基準」 「別紙 データベース」 予習として、テキスト該当ページを読んでくる。
6回	4. 看護師に求められるがん患者の就労支援とは 1) 看護とがん患者の就労（仕事）患者にとってのがんと仕事 2) 就労支援につながる看護ケア 3) 就労支援に必要な知識 労働にまつわる法律、お金や医療保険にまつわる制度 4) がんの局面ごとの支援のポイント がんサバイバーシップと就労支援、治療期の支援	講義 P・P使用	講義の最後に7回目講義までの個人課題を提示する。（評価対象） いくつかの事例について看護師ができる就労支援を考える。 <u>提出 月 日まで</u>
7回	V. 事例から見るがん患者の就労支援 いくつかのケースを提示し、個人ワークとグループワークから就労支援の実際を考える	グループワーク P・P使用	個人課題で提出したものに、グループワークでの学びを追記し再度提出する。
8回	筆記試験		

◆使用テキスト

勤労者医療概論、独立行政法人労働者健康福祉機構 勤労者医療カリキュラム検討委員会著

◆成績評価の方法

筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	2年次 11月～2月		
科目名	メンタルヘルスマネジメント	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師 (実務経験)	医師(女性外来勤務) 心理判定員(臨床実務経験あり)	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

職場のメンタルヘルスについて理解を深めることができる
 勤労者を取り巻く環境を学ぶ
 メンタルヘルス不全(精神疾患)の予防方法や対応方法、話しの聴き方などをロールプレイ等を通じ習得する

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	メンタルヘルスの成り立ち	講義	
	2	職場におけるメンタルヘルス	講義	
	3	メンタルヘルスマネジメントについて	講義	
	4	働く人のストレスについて	講義	
	5	メンタルヘルスマネジメント・リラックス法	講義	
	6	メンタルヘルスマネジメント・リラックス法	実技	
	7	メンタルヘルスマネジメント・リラックス法	実技	
	8	事業所での啓発行動の実際	実技	
	9	話しの聴き方について 1. パールズのゲシュタルト療法 2. エリスの論理療法	講義	
	10	パールズのゲシュタルト療法の技法 エリスの論理療法 技法	講義 ロールプレイ	
	11	話しの聴き方について	ロールプレイ	
	12	事例検討	講義	
	13	自殺について	講義・演習	
	14	まとめ	ロールプレイ	
	15	筆記試験	試験	

◆教科書

勤労者医療概論(独立行政法人労働者健康安全機構～勤労者医療に関する看護プロジェクト編著)
 あなたのストレスを減らす!! もう高ストレス者と呼ばれたくない 交流分析 わかりやすいTA フジメディカル出版

◆参考文献

◆成績評価の方法 筆記試験